



江原浩之 議員（白和）

熱中症対策は

答弁…警戒を促し避難施設を確保

問 熱中症特別警戒アラートが発表された場合、市の対応は。クーリングシェルターの指定箇所は。

熱中症特別警戒アラートが発表されていない時、クーリングシェルターでの熱中症対策をどのように考えるか。民間施設もクーリングシェルターとして指定しては。

答 熱中症特別警戒アラート時は、防災行政無線及び安心安全メールで警戒を促す。クーリングシェルターは市内公共施設7か所を指定し、一時的な休憩所としていつでも利用していただきたい。民間施設の指定は、まずは公共施設で定着を図った後に判断する。



健康 アクティブシニア活躍支援を

答弁…アクティブシニアを支援していく

問 超高齢社会の中、今後においても高齢者支援が重要である。アクティブシニア活躍支援事業の実績は。

また、県の補助金の状況は。今後、アクティブシニア活躍支援をどのように考えているのか。当事業を市の予算で復活できないか。

答 平成30年度から令和2年度までの3年間、講演会やボランティア講座等を実施した。また、現時点で県補助金の今後の交付予定はないとのことである。今後は、主体的に地域活動を行っている団体や老人クラブなどの取組についてより一層支援を行っていく。



石渡征浩 議員（TSUNAGU）

実効性のある 総合防災訓練に向けて

答弁…総合防災訓練の訓練内容を検討していく

問 ①自主防災組織が行う訓練メニューとの重複を避け、すみ分けを。②一つひとつの訓練メニューについて、時間・内容・参加人数の拡充を。③開会式・閉会式などのセレモニーは時間を短縮し、その時間を訓練時間に充てるべき。以上、3点の見解を伺う。

答 初期消火訓練など自主防災組織と重複する訓練を精査し、実効性のあるメニューを研究する。また、避難所運営・開設訓練などのメニューの充実により、訓練時間や人数などの拡充を図るとともに、開会式等の見直しを含め、訓練時間の確保に向け検討していく。



避難 災害時のスムーズな 避難所運営のために

答弁…自主防災組織との協力体制を図っていく

問 避難所の運営は、自主防災組織と市役所職員が協力して行うが、各自主防災組織がどの避難所を担当するかの基本案がない。早急に決めた上で、担当する避難所で、職員と顔を合わせ、事前に建物の配置や広さなど基本的事項を確認しておく必要があるが、いかがか。

答 自主防災組織と指定避難所の組み合わせは、自主防災組織の本来の主旨を考慮し、協力体制を構築することが重要である。当面は、自主防災組織を通じ、避難所の情報共有や意見交換等を重ね、避難所運営の在り方など認識を深めていただくよう連携協力していく。